

後の教育、研修をシームレスに接続するためには、医学部卒業時に卒業生が何を、どこまでできなければならないか（医学教育のコア・コンピテンス）を明確にしなければならない。

研修開始時に求められる研修医のコンピテンスを調査して、それをもとにした医学教育のコア・コンピテンスの作成を本委員会の活動目標とした。調査対象は、マッチングプログラムに参加する全国の大学附属病院、臨床研修病院の研修医である。第15期臨床研修小委員会で利用したコンピテンス¹⁾をもとに、研修医が研修開始時に研修業務を遅滞なく、安全に実施できるために、どのような臨床能力をどのレベルまで卒前医学教育で修得している必要があったかを1年次研修医を対象にレトロスペクティブにアンケート調査した。

アンケート用紙はランダムに抽出した128病院（81臨床研修病院、47大学附属病院）に送付、回収した。集計結果を解析して必要とされるコンピテンスを抽出し、医学教育のコア・コンピテンスとして本委員会から提言する予定である。

■文 献

- 1) 研修開始時に研修医が具有しているべき能力—卒前医学教育から卒後研修への移行についての考察— 日本医学教育学会 臨床研修小委員会 委員長：田辺政裕，委員：平出 敦，大西弘高，植村和正，岡田唯男，木川和彦，日下隼人，下 正宗，高橋勝貞，田中雄二郎，松村理司，医学教育 2008；39（6）：387-96。

16. 国家試験委員会

神代 龍吉（委員長・久留米大学医学教育学）

医師国家試験委員会は平成21年1月から神代龍吉（久留米大学）、北村 聖（東京大学）、志村俊郎（日本医大）、吉田素文（九州大学）、福本陽平（山口大学、その後宇部興産中央病院）の5名でスタートした。

(1) 医師国家試験についての提言

これから3年の間に医師国家試験に対して一定の提言を行う。平成19年の医師国家試験改善検討部会報告書や全国病院長医学部長会議の改善策とは立場を変え、あるべき国試の理想像を掲げた。医学教育学会の評議員や、臨床研修2年目修了者などを対象とした国試アンケートを計画した。

(2) Adv. OSCE の導入について

Adv. OSCE の導入には様々な問題点があり、検討すべき課題がある。本委員会としては学生の技術を評価する方法を考えてみる。近い将来、

Adv. OSCE を3年ほど試行し、国試として導入するか、あるいは各大学で卒業試験として導入するのが現実的か、見極める必要がある。吉田委員が見学してきた韓国における国家試験OSCEを参考にして本邦の医師国家試験にどう取り入れるかさらに検討することとした。

(3) 医師国家試験は医師になろうとしている者が備えておくべきプライマリケアにもう少しシフトして、専門医の試験とは性格を異にしてよいと考えられる。そのような意味で難問・奇問が含まれているとすれば、それはこの委員会を通じて指摘する必要がある。来年度の試験については委員が協力して問題を吟味することとした。

第16期の委員会が始まってまだ1年の今の段階では結果として報告できるものはまだないが、来年に向けて上記の計画を実行していく予定である。